

古代から中世・近世・近代・現代に至る「ロマンの道」

KY 「真摯に登る高野山39km 3コース」

NO	コース	歩行距離	歩行時間	行動時間	標高差	級
KY01	九度山駅から慈尊院・ニツ鳥居・天野の里	9.7	3:20	4:30	571	ウォーク初
KY02	天野の里から矢立・大門・金剛峯寺・奥の院	17.1	5:40	7:00	382	ウォーク中
KY03	壇上伽藍から女人堂・不動坂・学文路駅	12.3	4:20	5:40	792	ウォーク初

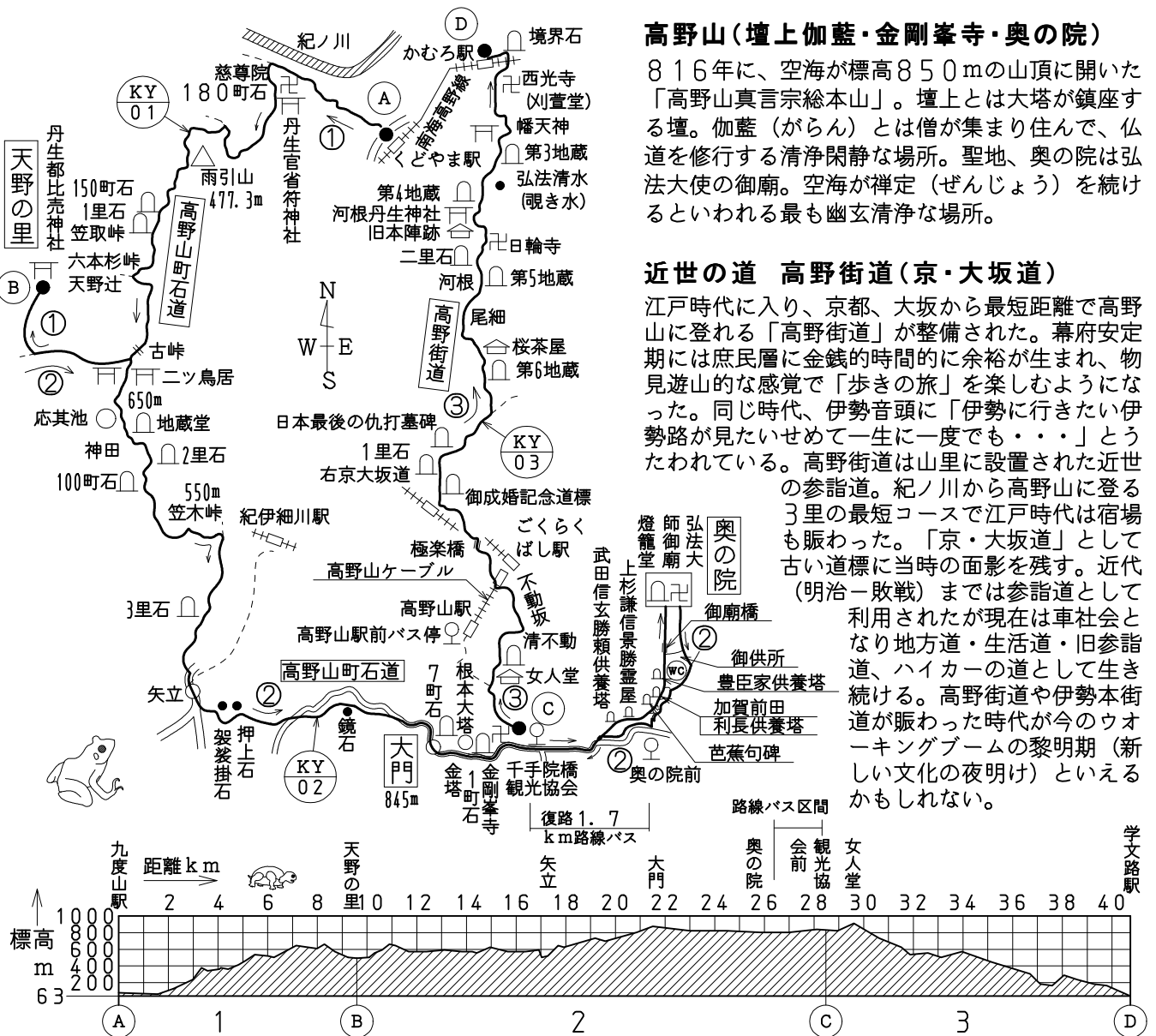
空海(弘法大師) 略年表

774年：讃岐国多度郡屏風浦（香川県善通寺市）で生まれる。792年：平城京の大学寮で明経道を専攻。804年：第16次遣唐使留学層として長安に入り密教青龍寺の恵果和尚に師事後2年で帰国し大宰府に滞在。816年：嵯峨天皇より高野山を賜る。821年：日本最大のため池満濃池改修工事を指揮。823年：東寺を賜り真言密教道場とする。832年：高野山で最初の万灯万華会が修された。835年：高野山で入定した。（禅定：精神を集中させ宗教的な精神状態とする）。921年：醍醐天皇から「弘法大師」の諡号が贈られた。

高野山町石道(全長約20km)・国の史跡で世界遺産構成資産の一部

石道の歴史は弘法大師・空海(774~835)が816年の開創時、道標で木製の卒塔婆(そとうば：仏舍利を安置する建造物)を立てた。現在の町石は慈尊院180町石から壇上伽藍の一町石まで一町(109m)ごとに立つ高さ3mの五輪塔型180基。うち150基は鎌倉時代のもの。

歩いて登らなければ功德が少ない。と信じられた国内最大級のパワースポット。梵字(古代インド文字)が刻まれた180個の町石はマンダラ(仏の悟りの境地を文字で象徴的に表現したもの)の緒尊を表し、道中歩行そのものが信仰の対象とされる。鎌倉時代「石道」をわらじに履き替え、1本ごとに丁寧に礼拝しながら登った後宇多法王をはじめ、多くの貴人(藤原道長、白河、鳥羽両上皇)をしりぬで、紀ノ川から高野山に登り紀ノ川へ下る。古代から近世につけられ、今なお原型を残す道を真摯に歩き通す、現在版で正統的な楽しいハイクです。



高野山(壇上伽藍・金剛峯寺・奥の院)

816年に、空海が標高850mの山頂に開いた「高野山真言宗総本山」。壇上とは大塔が鎮座する壇。伽藍(がらん)とは僧が集まり住んで、仏道を修行する清浄閑静な場所。聖地、奥の院は弘法大使の御廟。空海が禅定(ぜんじょう)を続けるといわれる最も幽玄清浄な場所。

近世の道 高野街道(京・大坂道)

江戸時代に入り、京都、大坂から最短距離で高野山に登れる「高野街道」が整備された。幕府安定期には庶民層に金銭的・時間的に余裕が生まれ、物見遊山的な感覚で「歩きの旅」を楽しむようになった。同じ時代、伊勢音頭に「伊勢に行きたい伊勢路が見たいせめて一生に一度でも・・・」とうたわれている。高野街道は山里に設置された近世の参詣道。紀ノ川から高野山に登る3里の最短コースで江戸時代は宿場も賑わった。「京・大坂道」として古い道標に当時の面影を残す。近代(明治一敗戦)までは参詣道として利用されたが現在は車社会となり地方道・生活道・旧参詣道、ハイカーの道として生き続ける。高野街道や伊勢本街道が賑わった時代が今のウォーキングブームの黎明期(新しい文化の夜明け)といえるかもしれない。